

1995

グループングケア研究会

代表 遠藤 邦弘

[グループングケア のテクニック]

認知症高齢者との接遇プロセスとして、態度・表情・眼差し・声・言葉等でのコミュニケーションが大切…

1 グルーピングケアのプロセス

認知症高齢者との接遇プロセスとして、態度・表情・眼差し・声・言葉等でのコミュニケーションが大切

- ①高齢者の視野に入っただのアプローチ(距離との関係)
- ②ゆったりとしたペースと穏やかなトーン(大声・高声)
- ③ウエィティング(待つケア) 動き・意欲・自尊心を抑制しない
- ④アイコンタクト(声の高さ・眼の高さ・行動の早さ・同じ服装)
認める・ほめる・さする・おだてる・いっしょにするケアが大切

2 いっしょにするケア(孤立させないケア)

- ② 齢者との目線を共にした生活の動作(ためいき・あくび)
- ②シッティング・アタッチメントの工夫は情緒の安定・安心・保証を生む

3 タッチケア(触れるケア)

- ①情報はふれあいからも伝わる(距離との関係)
- ②ゆったりとしたペースとリラックス
- ③ 方的なタッチは不快を招くので、してはならない

4 伝え合うケア

- ①シグナルをキャッチする(意味を読む)
相手の言葉や音声、表情、身体のかまえ、しぐさから行動を捉えよ
- ②伝わるように伝える
- ③沈黙の誘導
- ④ 高音ではなく穏やかな話し方が大切
- ⑤ 口言葉やきんきん声は、心にマスキングをつくる

5 「関心と尊重」「感心と賞賛」のケア

- ①認知症高齢者の生き方や力量に関心を持って
- ②尊重した言葉や態度で表現する
- ③認知症の方は介護者の反応を敏感にキャッチしている

6 プロとしての条件

- ①知識技術能力
- ②介護技術
- ③態度能力(接遇)笑顔とやさしい口調
- ④心のケア(相手の側から物事を考える)